

徳島新聞紙上対談 企画・制作/徳島新聞社 営業局 協力/徳島大学病院がん診療連携センター



出席者
若尾 文彦氏
 (国立がん研究センターがん対策情報センター長)
高山 智子氏
 (国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部部長)
丹黒 章氏
 (徳島大学病院副院長、胸部・内分泌・腫瘍外科学教授、徳島シンクロナン集会実行委員長)



徳島シンクロナン集会「踊るがんフォーラム2015」開催記念
「がんとうまく付き合おう」

2人に1人ががんにかかり3人に1人ががんで亡くなっている
しかも罹患率、死亡率ともに年々増加している

(丹黒) 1981年以降、がんはわが国の死亡原因第1位であり、2013年のがん死亡数は36万5千人で全死亡の30%を超えています(図1)。現在、毎年85万人以上ががんにかかり、生涯にがんにかかる率は約20%です。男性で62%、女性では42%です。現在、がんの罹患者は200万人以上といわれ、家族を含めると1000万人の国民ががんを闘っています。がん治療は日々進歩していますが、がん患者数は増加傾向にあります。

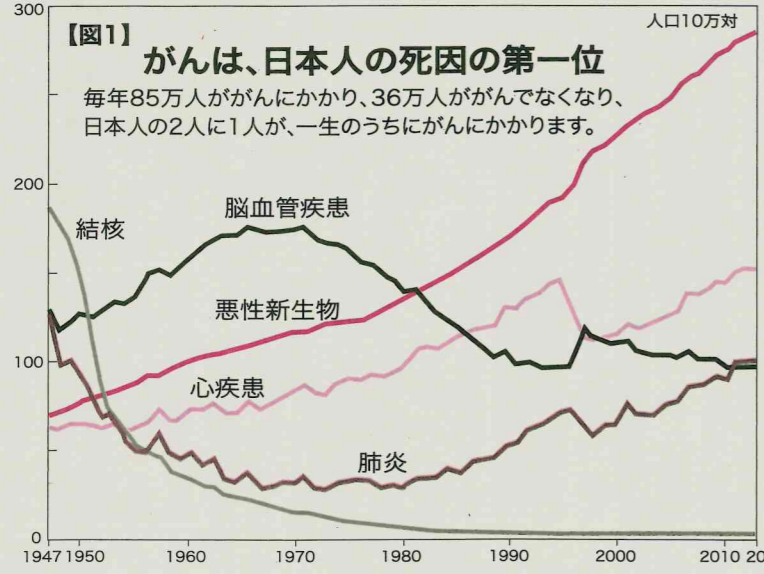
本日は国立がん研究センターのがん対策情報センターから若尾文彦先生と高山智子先生のお2人にゲストとして来ていただきました。お2人は各地にあるがん相談支援センターの活動を地域に広げ

る運動をされており、8月15日の阿波踊り最終日には市民公開講座を開催し、全国から集まったがんサバイバーと共に機軸に踊り込みました。

(若尾) 全国にあるがん診療連携拠点病院や地域がん診療病院には、がんの相談支援センターが設置されており、がん患者さんが直面するがん治療や療養、生活に関する様々な疑問に対応していただけます。残念ながらその存在が知られていないのがん対策情報センターからがんに対する情報を提供し、今年5月には博多どんたく祭りに参加し、PRしてきました。

がん患者さんの声から生まれたがん対策事業

(丹黒) 若尾先生、がん対策情報センターについて教えてください。
(若尾) がんの医療に対して信頼できる情報が知りたいという患者さん自身やご家族の不安を解消するため、「がん対策推進アクションプラン2005」(平成17年8月)が策定されました。その中で、がん患者さんからの相談対応を担う「相談支援センター」が



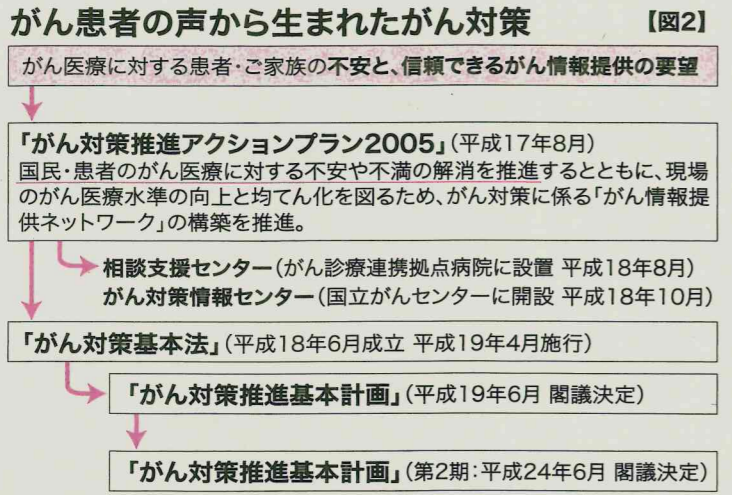
丹黒 章氏 高山 智子氏 若尾 文彦氏

【図3】 情報
 ◎信頼できる情報はどこにあるの?
 「医師の説明が、難しくよくわからない…」
 「治療は、どのように決めたらいいか…」
 「今の標準的な治療はどんなものだろう…」
 「インターネットには情報が多すぎて…」
 ↓
 正しい情報の在り処を知っていれば安心!

【図4】 国立がん研究センターがん対策情報センター

ん診療連携拠点病院に、また、さまざまながんに関連する情報を効果的に収集、分析、発信する情報ネットワークの中核的組織として、国立がんセンターにがん対策情報センターが設置されました。その後、平成18年6月16日にがん基本対策法が成立し、翌年4月から施行され、6月にはがん対策推進基本計画が策定され、がん検診受診率を50%にしてがんの年齢調整死亡率を10年間で20%減らすことを目的に政策としてがん対策が推進されています(図2)。

(若尾) そのような方に信頼できる情報を届け、不安な思いを解消していただくことを目指して、がん対策情報センターが「がん情報サービス」(ganjoho.jp)というホームページを立ち上げました。死亡数を20%減らす目標の達成は難しいという予測がされています。検診受診率は欧米の3分の1程度で、インターネット上には情報が溢れすぎています。この本音に信頼できるがんに対する正しい情報を忙しい医師からは聞きづらいし、など困っている患者さんにはたくさんいます(図3)。




【図5】 患者必携 がんになったら手にとるガイド
 普及新版 (A5判サイズ、224ページ)

ご自身、あるいは身近な人が「がん」と診断されたときに、手にとって読むガイドブックです。役立つ情報が体験談とともにわかりやすくまとめられています。

(高山) はい。がんの情報は、それを利用しやすいように提供しなくてはなりません。がん情報に関する様々な課題に関して専門家が専門的知識の提供を行うことがとても大事なことで、伝える内容によっては、医療者から伝えても伝わらない内容や情報というものがあつたり、専門家と体験者の方と一緒に視点を交えてつづけていくことで、よりイメージしやすか

たり正しいが出せています。また、専門的言葉を使わず、がんは、全国の癌つて援助団と市民パネルの大きな役割を担っているのが、このガイドです。患者や家族に教えるのが、なさんごに成しています。気をつけて、を傷つけてもありません。このガイドを私たちが用意しています。く(わかりやすくなる)と考えて、**がん相談** **がん拠点** **だれでも** **受けられ** **(丹黒)** たこの病院にたいとき、うところをがん診療連携拠点病院でがんの種類が、たごえ、折ると、がん診療連携拠点病院で、島県立中央

「付き合う方法」がんの相談支援とがん登録


情報 

◎信頼できる情報はどこにあるの？
「医師の説明が、難しくよくわからない…」
「治療は、どのように決めたらいいか…」
「今の標準的な治療はどんなものだろう…」
「インターネットには情報が多すぎて…」

↓

正しい情報の在り処を知っていれば安心!

【図4】
国立がん研究センター
がん対策情報センター
がん情報サービス
<http://ganjoho.jp>

がん 検索 

【図6】
がん相談支援センター
よくある相談のご紹介

がんの診断についてのご相談

- がんの疑いについて
- 医師の説明について
- 検査や今後の生活について

療養生活についてのご相談

- 医療費について
- 家族とのコミュニケーションについて
- 就労について
- 周田との関わりについて
- 自宅での療養・介護について

治療や病院の選択についてのご相談

- がんの治療について
- 情報収集について
- さまざまな治療法やセカンドオピニオンについて
- 医療者とのコミュニケーションについて
- 治療の副作用や生活面への影響について
- 緩和ケアについて

かにに関する
きめ細かな情報
提供とがん相談支援

(丹黒) インターネットでがん情報(検索する<http://ganjoho.jp>)にアクセスすれば、がん情報サービス(HOME)ページに入れます。このような情報が発信されているのでしょうか。

(高山) 各臓器のがんに関する解説や、診断・治療、治療中の食事や治療に関する支援制度のこと、がんの予防や検診についての情報も満載で、地域の病院情報や対応窓口の情報も掲載されています(図4)。また、がんになったときに順序立てて自分の状況に照らし合わせて情報を整理しながら読むことができる「がんになったら手に取るガイド」などの本や冊子も印刷することができます(図5)。こちらは本屋さんでも購入することができます。最近は大々さんの情報が発信されているので、まず確かな信頼できる情報源として利用したいと考えています(図6)。

(丹黒) がんに関する情報が満載のこのがん情報には患者さんの意見も入っているんですね。

(高山) はい。がんの情報は、それを利用しやすいように提供しなくてはなりません。がん情報に関する様々な課題に関して専門家が専門的知識の提供を行うことがとても大事なことで、伝える内容によっては、医療者から伝えても伝わらない内容や情報というものがあったり、専門家と体験者の方と一緒に視点を交えつつ伝えていくことで、よりイメージしやすか

たり正しい理解につながる情報が出てくるのではないかと考えます。

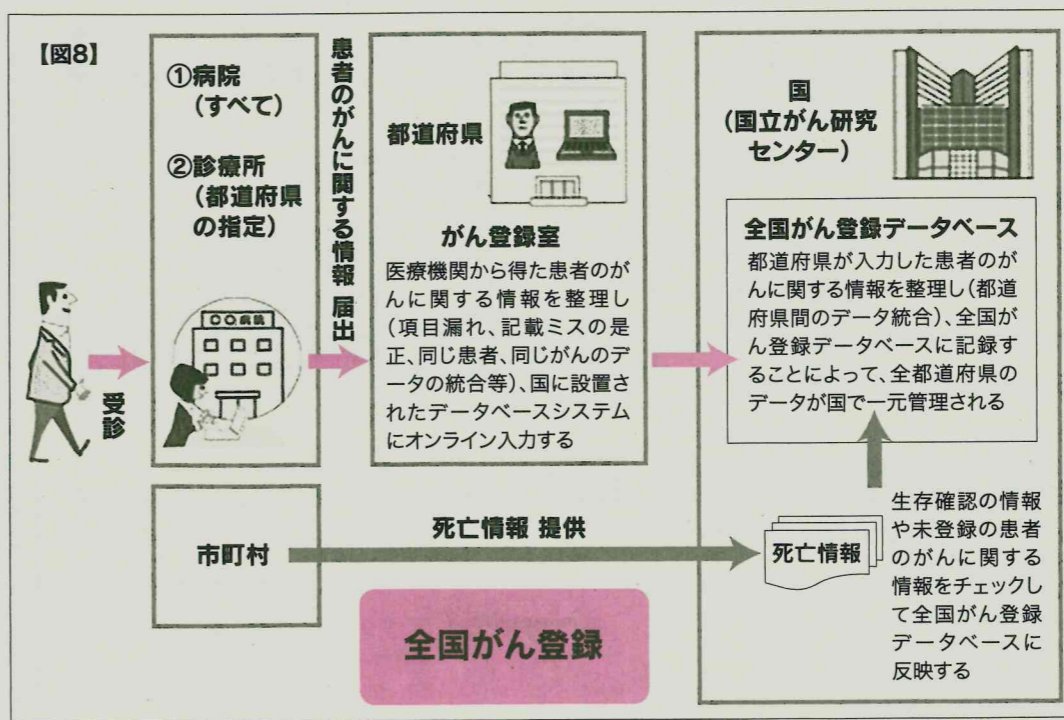
また、専門家はどうしても難しい言葉を使ってしまうことがあります。がん対策情報センターでは、全国の様々ながんの体験をもつ応援団として100名の患者・市民パネルの方々にも協力いただきながら情報づくりを進めているのですが、専門家のわかりにくい言葉を指摘していただいたり、患者や家族として欲しい情報や視点を教えていただいたりして、みなさんにご利用いただく情報を作成しています。専門家がふだん何気に使っている言葉が、患者さんを傷つけてしまったということもあるなど、こうしたがん体験者のみなさんに意見を伺うことで、私たちもとても勉強させていただきました(図7)。また読み手に易しく(わかりやすく)、優しい情報になることを考えています。

(高山) がん相談支援センターはがん診療連携拠点病院などに設置されている「がんの相談窓口」です。がん専門相談員として研修を受けたスタッフが対応してくれ、必要であれば専門医や認定看護師、薬剤師や栄養士、ソーシャルワーカーが対応してくれます。医師の説明でわかりにくいことや他の治療法の選択、医療費や仕事のこと、自宅での療養や緩和ケアなどについても相談のついでに、私生活についても相談のついでに、また相談したいことがある(図8)。

(若尾) がんは、日本人の2人に1人が罹る病気です。これだけ多くの人が罹る病気であるということ、がんの対策が国をあげて進められている訳です。しかし、実際に、がんにかかった人が正確に何人いるのか、そして、がんにはたくさんの種類がありますが、治療効果があがっているがん、あげられていないがんはどれなのか、がん対策を国をあげて行っているにもかかわらず、この対策がいつまでもかかっていないのかどうか、効果(がんの罹患率)を測るしくみがなければ、判定できないのです。この罹患率といった効果を測る大元のしくみが全国がん登録なのです。

(丹黒) 既に地域がん登録は行われているにもかかわらず、届け出が任意であること、個人情報保護法のこともあると、がん登録に消極的な人が多いことやがん登録に対する意識が低く、登録は7・8割程度であろうと思われています。また、都道府県単位での事業ですので投入される設備や人の地域格差があり、地域と都市部で常に人の出入りがあるにもかかわらず、地域間でデータの照合が行われていないため、正確なデータが把握できていませんでした。

(若尾) さらに、県外の医療機関を受診した患者さんの登録ができていなかったり、登録後の確認が難しいという問題もありました。全国がん登録が始まれば、がんにかかった人の正確な人数を把握し、登録後の確認もしっかり実施すること



で、検診での発見率、病院での治療率などの解析を、データに基づいて科学的に行うことができるようになります。がんの登録情報に基づいた生活の質(QOL: Quality of Life)調査が行われれば、がんサバイバーのQOLを向上させることもできるでしょう(図8)。

(丹黒) 国立がん研究センターの目指すものは「がんにならない、がんにならないうち、がんを克服する」がんで苦しむ人を少しでも減らしたい、「がんを知りがんを克服するために」をスローガンに毎年ピンクリボン活動を続けています。

今年も国立がん研究センターがん対策情報センターからお2人をお迎えして座談会を行いました。

(若尾) 全国がん登録は将来のがん治療やがん対策の発展につながり、がんが苦しむ人を減らしていくことを目的とした大切な制度です。しかし、まだ、よく知られていません。そこで、患者さん情報を未来に繋いで、新しい予防法や治療法を開発し、未来の患者さんにバトンのように繋いでいくと考えて「サンキューバトン」というホームページを立ち上げました(図9)。

【図5】
患者必携
がんになったら
手に取るガイド
普及新版
(A5判サイズ、224ページ)

ご自身、あるいは身近な人が「がん」と診断されたときに、手にとって読むガイドブックです。役立つ情報が体験談とともにわかりやすくまとめられています。

『がん情報サービス ganjoho.jp』にて、無料でダウンロード・印刷することができます。また、全国の書店にて購入することもできます。

ISBN:978-4-7809-1129-9

【図7】
徳島県内の
がん相談支援センター

- 誰でも無料で相談できます。(その病院にかかっているなくても)
- 訪問したり、電話でも相談できます。
- 国立がん研究センターで研修を受けた相談員が対応します。
- 相談員は、看護師、医療ソーシャルワーカーなどが担当しています。

都道府県がん診療連携拠点病院

- 徳島大学病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 徳島県立中央病院
- 徳島赤十字病院
- 徳島市民病院
- 地域がん診療病院
- 徳島県立三好病院

がん情報サービス[サポートセンター]
0570-02-3410 平日10時～15時
でご案内いたします。

(丹黒) 本年も平成27年8月15日、徳島ピンクリボン集会「踊るがんフォーラム」を開催し、がん情報とがん相談、2016年1月から

【図9】
Thank You Baton
全国がん登録 PRキャンペーン サイト
<http://39baton.ncc.go.jp>
感謝をつなぐ。未来につなぐ。

10月はがん検診月間

症状のないうちに
がんを見つけて
一病息災

がん死亡率が減少傾向にある欧米と異なり、日本ではがんの罹患率、死亡率とも増加傾向にあります。日本の医療水準はかなり高いとされているのになぜでしょうか。多くのがんは早期に見つければ助かる病気です。特に無症状のがんを発見することができる検診はわが国のがん対策の上で最も重要なことです。